

研修並びに行政視察報告

(会派 同心)

<研修・視察目的>

・群馬県渋川市

少子化対策、人口減少対策の一環と、子育て世代の経済的負担を軽減するため学校給食の無償化の取り組みを研究し、参考にするため。

・東京都八王子市

日本遺産「出雲国たたら風土記」をより活用して観光振興につなげるため、様々な取り組みをしておられる八王子市を視察し、調査・研究し、参考にするため。

<視察概要一覧>

研修・視察 月日	研修・視察先	研修・視察施設	研修・視察内容
8月3日 (水)	群馬県渋川市	渋川市役所 第2庁舎	・学校給食完全無料化について
8月4日 (木)	東京都八王子市	日本遺産センター 八王子博物館	・日本遺産の活用と発信について

<研修・視察概要報告>

1. 群馬県渋川市

●説明者： 渋川市教育委員会 教育部 教育総務課長ほか職員2名

●説明概要：

・「学校給食完全無料化について」

【概要】

1. 目的：子育て世代の経済的負担を軽減することにより、子育て支援の充実を図り、切れ目のない総合的な少子化対策及び人口減少対策を推進するもの。
2. 経緯：平成28年4月から渋川市立小中学校に通う児童生徒の学校給食費の約30%を公費負担とし、さらに第3子以降の給食費全額公費負担を開始した。そして平成29年4月から、さらに子育て支援の充実を進め若い世代が定住できるよう、総合的な財源の調整を図った中で全額公費負担とした。
3. 無償化に要する予算額（令和4年度）：2億6,499万円
対象となる小中学校の見込み人数：小学生3,207人、中学生1,697人の合計4,904人
4. 課題：恒久的な財源確保

【説明内容】

※無料化の経緯と現状

群馬県内において学校給食無料化を実施しているのは2市、7町、3村であり、大田市が令和4年10月から中学校、令和5年4月から小学校の無料化予定とのこと。

最初に無料化を行ったのが渋川市（平成29年4月から完全無料化）であるが、前市長の選挙公約の形で段階的に完全無料化に進んで行ったようである。

無料化に伴う財政負担は、令和4年度では約2億6千万円であるが、無料化実施に際して、このことが今後の市財政に及ぼす影響等財政計画のなかでは議論されていない。

一旦無料化を実施すれば、将来的にこれを止めることはできないため、市議会の中でも無料化に慎重（否定的）な意見はあったようである。

無料化に対しては、保護者からは歓迎される面もあるが、一方では、負担はしてもいいので、質の高い給食の提供を望む声も多くあるとのこと。

定住化対策としての面もあると思われるが、給食費無料化後も人口減少は続いているとのことである。

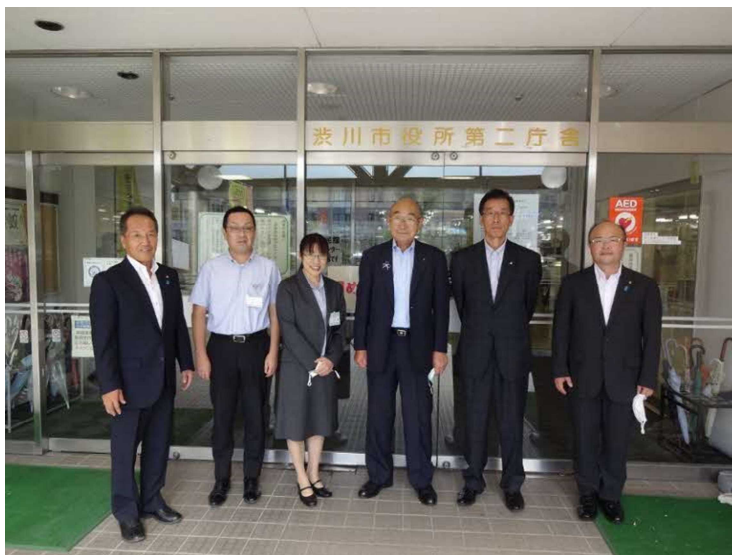
※給食提供体制

給食は市内3か所の共同調理場で作っている。2か所は直営（内1か所はアレルギー対応調理場）、1か所は業務委託である。

3か所で6,500食に対応可能。

無料化とともに、質の低下があってはならないという思いからか、調理員に意識は向上しており、本年6月からは、毎日の給食のメニュー（写真、献立、コメント）を3工場ごとにホームページにアップしている。要望があればレシピも提供するとのこと。

保護者等を対象とした調理場見学や試食会も実施しているとのこと、質の高い給食を提供しているという宣伝もしっかりされている。



渋川市役所第二庁舎
玄関前 担当課長
（左から3人目）と
担当係長（左から2
番目）

【考察】

渋川市においては、無料化実施後しっかりと給食提供体制がとられている。本市においても今後検討していかなければならないテーマであると認識しているが、無料化は実施してしまえば後戻りは難しい。

また、無料化を含め、市民負担の軽減という問題を政治の材料にするようなことはあってはならないと考えている。特に子育て・教育・医療等の分野での市民負担については、単独の自治体で考えるのではなく、国や県レベルで考えていかなければならない問題ではないだろうか。

そういう意味でも、市の財政負担も含め実施前にしっかりと議論が必要であると思う。



渋川市オリジナルマンホール蓋の数々

2. 東京都八王子市

●説明者： 八王子市教育委員会 生涯学習スポーツ部長ほか 職員3名

●説明概要：

・「日本遺産の活用と発信について」

【概要】

2020年6月に八王子市が文化庁に申請したストーリーである「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」が、東京都初の日本遺産に認定され、昨年6月には「桑都日本遺産センター 八王子博物館」をオープンし、桑都と呼ばれる八王子の魅力を発信し、日本遺産のストーリーと、原始・古代から未来へとつづく八王子の歴史文化を紹介しておられます。事業については、日本遺産「桑都物語」推進協議会で行われ、文化庁の補助事業（人材育成・普及啓発・調査研究・活用整備・情報コンテンツ作成）を中心に、工夫を凝らした取り組みをしておられる。

【説明内容】

※日本遺産認定

令和2年6月19日、「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」が、東京都初の日本遺産に認定される。「桑都」と称され、養蚕や織物で発展してきた八王子の歴史を、高尾山とのつながりによって、過去から現在、そして未来へと紡いでいく物語は、29の有形・無形文化財で構成されている。

※認定後の取組

八王子市都市戦略部内に日本遺産「桑都物語」推進協議会を設立し、令和2年度文化庁補助事業として、人材育成、普及啓発、調査研究、活用整備、情報コンテンツ作成の各事業に取り組んでいる。

10月には、日本遺産フェスティバル in 今治に参加。

令和3年度も引き続き文化庁の補助事業を実施するとともに、11月には日本遺産フェスティバル in 小松に参加。

令和3年度の主な事業では、日本遺産ガイドの養成、八王子いちょう祭りでの実地研修や織物工場見学を通じた人材育成、八王子の繊維産業と暮らしの一部の体験イベント、八王子芸妓の活動展示を通じた普及啓発、古道ウォーキング、構成文化財看板製作・設置、日本遺産体験スペースの整備等々多くの事業に取り組んでいる。

京王八王子駅から徒歩8分のところにあるサザンスカイタワー八王子3階に、桑都日本遺産センター八王子博物館で日本遺産のストーリーが紹介されている。入場無料である。

狭いスペースを有効に活用した各種展示、特に北条氏照の居城、滝山城と八王子城を紹介した投影模型は産官学の協同作品であり、いろんな角度から城の造りが見られる工夫が施されている。



八王子市の施設担当者から説明を受ける

【考察】

日本遺産認定後非常に積極的な普及宣伝活動に取り組まれている。東京都初の認定であり、構成文化財の全てが市内にあるという大きな利点がある。

安来市においては、尼子氏の居城月山富田城を通じた宣伝普及には努めているが、「出雲の国たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」では、構成文化財が2市1町に分散しているため、市独自の取組に少し欠けたところがあるように感じている。

和鋼博物館など、八王子市のように、「たたら日本遺産センター和鋼博物館」と名乗ってみるのも一つのアイデアかと思う。

雲南市、奥出雲町と連携を取った積極的な宣伝普及活動が必要であると感じた。



八王子市担当部長（右から2番目）と施設担当者（右から3番目）

以上